

輸入車の整備技術情報の流通について

JISPA への問い合わせの中で、比較的多いのは「入会したら、輸入車のサービスマニュアル、配線図、作業点数表などが閲覧できるのか？」というものである。これは日本独自のFAINESのようなシステムが、世界のどこでも実施されているとの誤解から生じている。

FAINES(ファイネス)とは、日本の一般社団法人日本自動車整備振興会連合会が運営する、全国の認証整備工場や指定工場に向けた整備情報提供システムである。このシステムは、主要な国内自動車メーカーから提供される「点検整備要領書」「作業点数表」「サービスマニュアル」「OBD 関連情報(DTC 一覧や点検手順)」「リコール情報」などを、横断的に一括検索・閲覧できる仕組みを備えている。ただし、すべての車種・全モデルが完全に網羅されているわけではなく、情報の提供範囲や更新頻度はメーカーごとに異なる。

<海外との比較>

欧州(EU):EU 規制(EU 2018/858)により、自動車メーカーは第三者に整備情報を開示する義務があるが、各メーカーが独自の整備情報ポータルを持つ形であり、日本のFAINESのような横断的統合プラットフォームは存在しない。

アメリカ:連邦法に基づき、整備情報の開示が義務化されており、NASTF(National Automotive Service Task Force)がアクセス保証を推進している。ただし、FAINESのような全メーカー横断型のシステムは存在しない。

韓国・中国・東南アジア:これらの国々では、整備情報は基本的にディーラー網を通じて提供されており、独立整備業者への情報提供は限定的。

一部制度改革は進んでいるが、日本のような包括的な統一システムは存在しない。

結論:FAINESのような整備情報の横断的統合サービスは、世界的に見ても非常にユニークであり、日本独特の制度である。海外では整備情報は各メーカー単位で提供されており、日本のように中立的団体が一括して提供するモデルは稀である。

JISPA(一般社団法人日本輸入車整備推進協会)は2013年に設立され、その時に調査したが、

- ① 輸入車各社は自社が運営するポータルサイトで、自社の車両の整備情報を販売している。クレジットカードによる支払い等の事前の登録及び情報利用に係る契約の締結が必要。
- ② 団体とか組合で一括契約は認めていない。あくまでメーカーと個々の自動車整備工場との契約になる。
- ③ 情報は日本語での提供は少ない。登録及び契約、問い合わせも原則的には英語での実施が必要。

以上